

パース通信

パース日本人学校（帯広市立栄小学校）No.3 畑中美佳

4 学期制のパース日本人学校の 7 月 18 日から始まった 2 学期がもうすぐ終了します。地元の学校との合同運動会や 4 月に移転した後同じ敷地内で学んでいくシティビーチ小学校との交流授業など現地との関わりや西オーストラリア州の学校として受ける英語での研修、学校内では校内授業研究で授業したことや長年小学校教諭だったため、初めて作成した中学生の期末テストづくり、他学年の音楽交流会を実施したことなど短い期間ではありましたが、濃密な期間でした。

ホリデー明けの 3 学期は、パース日本人学校の中で最も忙しい学期になると先に来られている先生から言われています。それに加え、3 学期は移転準備が本格化していくので頑張りたいと思います。

現地校との合同運動会

以前、同じ敷地で学んでいたスカボロー小学校との最後の合同運動会になりました。日本でもオーストラリアでも行われる徒競走やオーストラリアの運動会でポピュラーな競技「ボール送り」「リレー」や日本の運動会でよく見る「大玉送り」や「台風の目」「玉入れ」「綱引き」などを一緒に行いました。また、そこで「よっちょれソーラン」を日本人学校の子どもたちが披露する場面もありました。

運動会までに、合同練習が 2 回あり、日本人学校の子どもたちが、スカボロー小学校までバスで行って練習しました。ランチから向こうにお邪魔して昼休みを共に過ごして午後 2 時間練習を行う流れでした。練習は、日本の運動会とは違いチームで何度も練習を重ねという感じではなく、運動会練習の時に協議を体験して理解するという感じでした。

運動会本番前にも

「日本の運動会に比べると、すごく自由でびっくりするよ。」

と言われていましたが、実際に体験してみて自由さにびっくりしました。

① 入場行進

入場行進は自分の荷物をもって入場。手を振るのはもちろん、側転する子もいるし、全体的にみると、日本人的にはダラダラ歩いているように見えます。今回、初めて参加されたお子さんの保護者の方も、日本の手の先まで練習する行進とは違っていると驚いていらっしやいました。



② 表彰台

個人種目では、一組ずつ入賞者が毎回表彰台に上がります。競技を行っているなか表彰者の名前が呼ばれ、保護者が写真を撮りに行きます。また、閉会式でも、各学年の優秀者が呼ばれ表彰台にあがっていました。

③ 各競技

オーストラリアの競技の中で一番驚いたのは人数や競技回数のアバウトさです。

その日、集まった人数をその場で数えて指示をだします。人数制限があるものは先生が順に数えて人数に達したら「Go Back」と言われ待機させられていました。1回目の競技が終わると、次行う指示があり、待機していた子に声がかかりますが、人数が足りない場合はやる気がある子が手を挙げて2回目を行います。3回目は、ほぼ、やる気がある子だけ競技する場に残っていて他の子は草の上で遊んでいました。もちろん、リーダーも並び順も本人のやる気で決まるので、手をあげたり、早くに自分のやりたい順のところに並んだもの勝ちで日本のように目的をもってリーダーを決めたり順番を決めることはありません。

基本自主性に任せているのか、先生たちは、指示は出しますが、聞いていない子や遊んでいる子は自己責任で徒競走で自分の番に気づかずに出場できずに泣いている子や遊んでいる子が多い学年は、最後にまとめて走らされていました。

また、「リーダーボール」という競技は驚きました。競技内容は難しくなく、リーダーが列の先頭に立ち、前から順番にボールを投げます。リーダーのボールをキャッチした子は自分のマークのところにボールを置き、列を一周走ってリーダーにボールを返します。次に後ろの子に投げて…と繰り返していく競技です。



ただ、そのボールがソフトボールぐらいの大きさで硬さのボールです。素手でキャッチするためには、上手にキャッチ

しないと突き指しそうですし、当たっても痛そうです。

終わった子たちがうずくまっていますがボールに当たらないように頭を守っているのです。けっして練習する運動会ではないので、ボールが違う方向にそれることは日常茶飯事です。練習で私のクラスの子が背中にボールが当たってビックリしました。かなり痛そうでしたが、当ててしまった子は、笑って Sorry だけだし、指導する先生も気にしないのは驚きでした。

また、競技の参加の仕方も日本と違いました。日本の子どもたちは競技中はもちろん入場や退場もしっかりとルールを守って取り組みますが、オーストラリアの子どもたちは楽しいことが優先のようで、玉入れの数を数えているときにも友達に向かって玉を投げたり、座って待つところを立っていて注意されても意見をいったり、自分の感情に正直でした。

④ テント内

競技のない子どもたちはチームごとにテントで待っています。日本の子どもたちと同じようにチームの応援をしている子もいますが、チップスを食べたり、持ってきたおもちゃで遊んでいる子もいます。なかには、競技に参加するときにもポケットにヨーヨーを忍ばせていて先生に一時預かりになっている子もいました。

現地校との交流

今度の4月から一緒に敷地で学習するシティビーチ小学校との交流授業がありました。

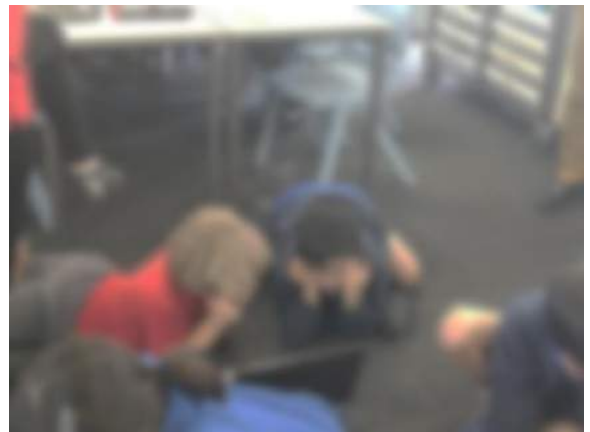
私の担任する4年生はパソコンを使った授業の交流でしたが、現地の先生が気を使ってくださって最初はリーダーの子たち8人ぐらいと、うちのクラスの5人とでリーディングの授業をしてくれました。

その後、リーダーの子どもたちが、ソフトを使ってつづりの確認などゲームで行う学習をしました。

お昼を一緒に食べた後、昼休憩まで一緒に遊び帰りました。

私たち教師陣は、ランチの時にシティビーチ小学校の先生が用意してくれたランチを食べながら交流をしました。

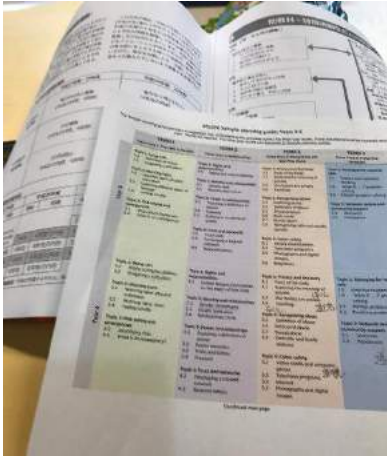
また、次の週に行われたシティビーチ小学校の運動会では、よっちょれソーランを披露してきました。あまり現地との交流がない子は緊張したようですが、2学期の反省で楽しかったことにあげていたので、他国に来たからこそできる良い経験だなあと感じました。



オーストラリアの教育と

西オーストラリア州に日本人学校を認めてもらうための書類提出や研修は続いています。

どのように取り組んでいけばよいかの説明を聞いたり、書類を提出したりすることは、現地採用・派遣問わず、英語の堪能な方を中心進めていただいています。



ただ、オーストラリアの現地校でも受けなければならない研修を2学期は9月に2回受けました。1時から4時までの3時間の研修のため、子どもたちは午前授業です。現地の先生用の研修なので、当たり前ですが講師の方の話は全部英語です。現地採用の方や英語の先生で7割ぐらいわかると言っていた内容なので私にはかなりハードで終わったらぐったりしました。

この研修やレポートに基づいた聞き取りが11月の視察にあるので真剣に取り組んでいます。噂では、同じオーストラリアのシドニーやメルボルンは、各州ですでに認定を受けているとのこと。

日本人学校3回目の校長先生が「今までの日本人学校では、なかったよ。」と言っていますし、長くパース日本人学校で働いている先生方も「今年は研修が多い。」と言っているらしいので、今年度が当たり年のようです。英語が得意ではない私は、あまり役には立てませんが、なかなか経験できない貴重な経験をさせてもらっています。

最後まで研修と来客

2学期の最後は、成績表の提出などもありましたが、来客が多かったです。9月13日に政務官が視察に来られました。各クラス短時間でしたが、政務官に授業を観られるなどないので、子どもたちと同じようにドキドキしました。終業式2日前には、企業の方の視察と女子栄養大の准教授の先生の研修講義がありました。特別支援を有する子たちのことについて中立的な立場で分かりやすく話して下さり勉強になりました。(写真は栄養大の先生の講義のものです。)



授業研

8月9日に算数「わり算」で授業研を行いました。

2学期の1週目で指導案提出をしながら進めていきました。地元で授業公開をしたことがないわけではないのですが、地元の学校と違って研修テーマや研修の進み方が違いました。また、説明を聞いて自分が持つイメージとパースで研修を経験している方のイメージが違って、どう進めたらよいか自分で混乱してしまったことが大変でした。北海道では、当たり前なのが他県では違うことがわかって勉強になりました。授業研自体が昨年復活したということで、昨年来られた先生は、まだ公開していないということなので他県の先生が来年公開されるのを楽しみにしています。



音楽交流会

私が音楽を担当している3年生から5年生のクラスと中学部のクラスとの交流会をしました。運動会が延期になってしまったため、運動会前日に行うことになりました。

中学部の生徒に7人には一人一回ずつ合唱の中にソロパートを設けたり、小学部も2・3人ずつグループで披露する場面を作れるなど少人数ならではの発表ができてよかったです。保護者の方にも、喜んでいただけたので、4学期にも交流発表会を開きたいと思います。1回開催して練習計画もイメージできたので私自身も楽しみです。



日常生活

パースでの生活も半年、買い物や交通にも少しずつ慣れてきました。また、パースは、日本とは逆に今は春になりました。よく通る道や学校のグラウンドに咲く花や蝶が飛んでいるのを見て感じられます。

写真は、パースの路上でよく見かける看板です。左は2時間無料で止められるという意味で右は書かれている時間はチケットがいります。書かれていない時間や曜日はチケットなしで止めてもいいです。という意味だそうです。路上に線が引いて合ってそこに駐車します。チケットの購入の仕方色々あるらしく、私はできるだけ避けて止めています。

